カムチャッカ半島付近の地震に伴う対応の「振り返り」について

資料1

令和7年7月30日に発生したカムチャツカ半島付近の地震に伴う道や市町村の災害対応の振り返りを行い、国とも情報共有を行いながら、課題の洗い出しや対応の方向性について取りまとめた。
【振り返りの方法：8月4日～5日の2日間でアンケート及び個別聞き取りにより実施。（対象：69市町村、11振興局、本庁）】

課題・問題点

1.避難指示発令
- 避難指示の遅延

2.道防災システム（Lアラート）の運用
- 災害対応中情報の市町村におけるシステム入力

3.避難対策
- 車避難による渋滞や踏切遮断機による迂回避難の発生
- 住民の避難意識、観光客や外国人に対する多言語での情報発信
- 長時間津波警報が発表されたことによる孤立地区の発生
- 障がい者等の避難に係る個別避難計画の活用
- 要配慮者や社会福祉施設入所者の避難状況の把握
- 夏休み中の児童・生徒への避難指示の伝達
- 学校における避難判断や避難者受け入れ対応
- 警報下における水門ゲートの開閉作業
- SNS等による誤情報やデマの拡散

4.避難所等
- 避難所等における熱中症対策や食料等の備蓄・提供、ペット受入
- 屋外の指定緊急避難場所の状況把握や屋内避難所への誘導
- 浸水区域内の店舗等が休業

5.災害対策（連絡）本部
・避難者数、被害情報の取りまとめや本部員会議の遅延

カムチャッカ半島付近の地震に伴う対応の「振り返り」について

資料1

対応の方向性

【8月中に対応】

- 市町村の避難発令基準の緊急点検
- 市町村の入力体制の実態調査
- 道防災情報システム（Lアラート）の入力マニュアル修正
- 道防災情報システム（Lアラート）訓練の実施
- 本部運営の見直し

【今後の対応】

- 防災計画やマニュアルの改正、体制の見直し、教育・訓練等
- 防災情報システムの改修等
- 避難時の渋滞解消対策や線路横断に関する検討
- 情報伝達手段の多様化と多言語化の促進
- 災害時における孤立地区対策の強化
- 避難所の熱中症対策や物資の備蓄充実
- 指定緊急避難場所のあり方検討
- 子どもの避難支援に係る学校や地域の体制強化
- 要配慮者等の避難対策の促進
- 水門の自動化
- 偽・誤情報対策の充実強化

※今後、国への要望も検討